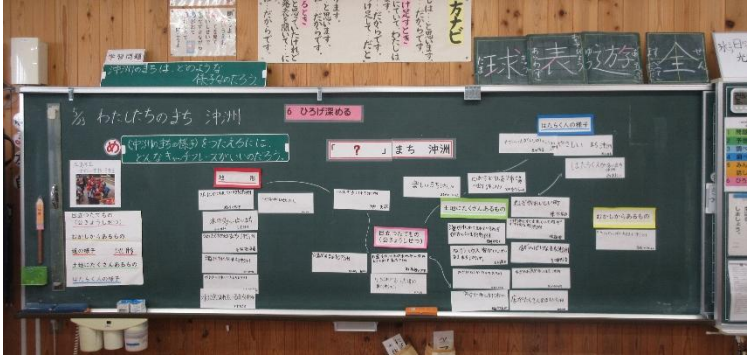


Toi Story 3



●3-3 中研 お世話になりました。

中桐先生、3年部の先生方を中心に授業の準備や当日、記録の整理などありがとうございました。



単元：わたしたちのまち 沖洲

めあて：学習した内容を根拠として、考えを表現することができる。

見通しをもつ判断の問い：沖洲のまちの様子を伝えるには、どんなキャッチフレーズが いい のだろう。

三層	六段階
Ⅰ 問題 把握	①問題をつかむ
	②予想をたてる
	③調べ方をきめる (見通しをもつ) (学習計画をたてる)
Ⅱ 意味 把握	④調べたしかめる (ひとりやグループで調べたしかめる)
	⑤みんなで考え話し合う (考え話し合ってまとめる)
Ⅲ 発展	⑥ひろげ深める

中研の成果（主なもの）

○深く分かるための判断

まち探検をしてそれぞれの特徴をつかみ、地形や土地利用などの様子に着目して校区の特徴をつかんだあと、沖洲のキャッチコピーを考えることで、学んだことを根拠に、まちの様子を総合的に見たり、より特徴的だと思うものを選んだりして、表現できていた。まち探検をしっかりと行ったことや掲示資料があることで、根拠のある発言につながっていた。

○日常的アプローチの活用

教室に地図やこれまでの学びを掲示しておくことで、子どもたちの関心を高めたり、考えるきっかけとなったりしている。授業中に、教室の資料から根拠を探す様子も見られた。また、発言するときに資料を使って説明する子どもも多く、動きのある授業につながった。

○考えを深める手立て

問い返しをすることで、子どもたちの意識が社会的事象の見方・考え方につながっていた。似たキャッチフレーズにした子もちがう理由を説明できたり、自分の意見に付け足したいものを選んだりすることができていた。

○問い続ける工夫

問い返しを「？」なまち 沖洲 と板書することで、もう一度考えるきっかけをつくり、自分のキャッチフレーズを見直したり、友達のキャッチフレーズと比べたりして、どんなキャッチフレーズが いい のか、問いをもつことにつながった。